すべては、宇陀の未来のために

信じよう、宇陀の力。

勝井太郎

こんにちは、勝井太郎です。
31 歳のときより 2 期 8 年間、市議会議員をつとめてまいりました。
政治家になったきっかけは、ずっと何百年も続いてきたこの地域が今後も生き残っていけるのか不安になったからでした。
亡くなった祖父に、「この地域はずっとみんなで支え合って生きてきた。私の家もまわりの方々が助けてくれたから繋がってくることができた。だからこの恩は忘れてはならない。」と言われて育ちました。
けれど、おとなになった私が見たのは、バブル時代に計画された大規模宅地開発計画が頓挫し荒れていく山・田畑、1 軒 1 軒と空き家になっていく集落でした。そして目先の利益にとらわれるのではなく、もっと大きな視点をもって地元の未来を見据える仕事をしたいと思って政治家になりました。

これから日本中が人口減少に進むのは確実な事実です。その中で、いつまでも都市が稼ぐお金を地域に引っ張ってくる政治や行政のあり方では、いけないのではないかと思っています。
宇陀が生き残るためには、この地で自ら小さくても業を起こし、地域の中で生きていける新しいモデルをこの宇陀で生み出していくべきだと考えてきました。

そのためには、もっと自由闊達な地域を作り上げていく必要があります。しかし、今の宇陀には市民が共有できる明確なビジョンがありません。日本中から広く人材を受け入れ、反対に宇陀から人材を輩出していく、日本を救う新しい田舎町を創るのです。そのためには、私たちがそういう未来をまず思い描いて共有できるビジョンを持つことが必要です。

**今まで、日本全国の地方再生の先進地を見て回り、
その智慧を宇陀に持ち帰り続けてきました。**

まちづくりや農林業再生に全力を傾けている地域などをひろく回りネットワークを作ってきました。「こういう取り組み面白から一緒に勉強していこう。」そう言っていろんな知恵を共有してきました。

**得た智慧を地域の方々と共有し、
地域と地域を盛り上げてくれる市外の方々をつなげることを意識してきました。**

議員になり市内外の様々な人達と繋がりができました。インターネットを積極的に活用してきたので、政治家の中ではかなりの知名度があります。特に志高い若手首長、議員や官僚、大学教授など専門家との人間関係が出来たので地域課題を直接、霞が関や大手企業、大学に繋いで政策を作ってきました。

**新たに飛び込んだ大学院での地方自治・地域政策の研究を通じて、
宇陀市のまだアピールできていない魅力に大いに気づくことが出来ました。**

自治体政策を専門的に研究できる大阪市立大学大学院創造都市研究科に入学して地域活性化の取り組みについて研究しました。地域で活動できる時間を犠牲にする事になりましたが、おかげで客観的な数値による裏付けのある政策を作り、確認することが出来るようになりました。

**その反面、議会の混乱、行政の不正を目の当たりにして、
宇陀市政の危機的状況に対しては強い憤りを感じております。**

思い込み、思いつきなど、根拠のない行政運営がなされているのではないかと思います。調べればわかることも確認せずに「行政が言っているから間違いない」、と思ってしまうと、議会の機能が大幅に低下してしまうのです。これはまち全体で共有すべき将来のビジョンがないことから起きていると思われます。市政は特定の誰かのためではなくて、ひろく市民のためにあるものです。

地域の中で思いを持って活動をしている方々、この宇陀を選んで飛び込んできてくれた移住者の方々、多くの方々と一緒に宇陀を立て直すために、皆さまのお力をどうかお貸し下さい。

私の宇陀の新しいビジョンを提案します。

田舎を田舎のままで進化させる
古くて新しい最先端のまち宇陀の創造

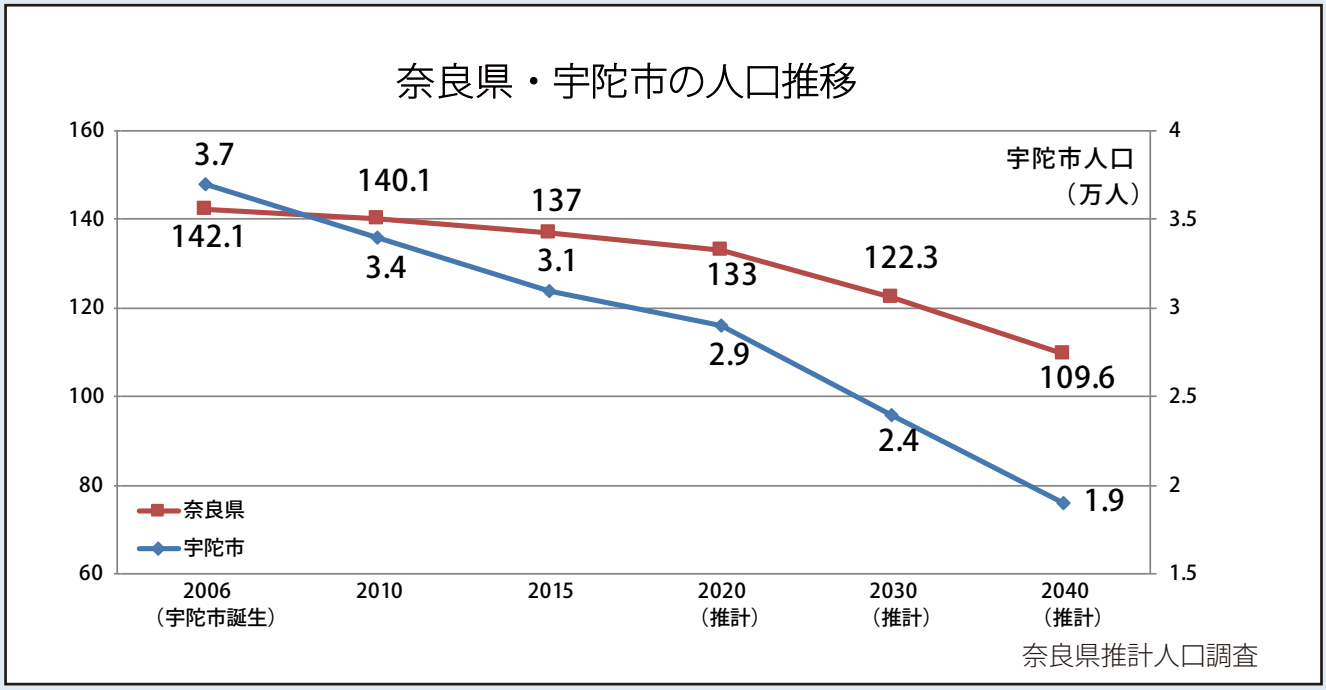
本来の宇陀は自由闊達な自然豊かな地域です。
豊かな農山村の風景、伝統的な建造物、寺社仏閣があり、自然に感謝し自然と共生する伝統がまだまだ残っています。私達は地域のつながりを大切にし、誰かが困っていれば手を差し伸べる「恩送り」の文化が昔から息づいていました。大災害が起きれば、被災した他の地域の方々を温かく受け入れともに歩む懐の深い地域でありました。
ただ、バブル崩壊以降、徐々に「自由闊達・恩送り」の精神が薄れつつあるのではないかと感じています。

かつての宇陀は宇陀松山、榛原商店街など市内外からヒト・モノ・カネが集まる地域でした。日本有数の製薬会社、IT 企業などを輩出し、起業家精神あふれる風土が根付いていました。もう一度、その精神を呼び起こしましょう。

今でも日本で有数の生産数を誇っているダリアの球根生産。
宇陀を中心とした大和高原地域は有機農業、自然農業の一大集積地として認識され、実際に農業を志す若者の受け皿になりつつあります。薬草栽培など先人たちが作り上げたものをもう一度復活させようとする動きも徐々に出始めています。

電車が通り、名阪国道まで近い立地条件は移住する方にとって大きな魅力となっています。
市内全域に光ファイバーケーブル網が張り巡らされ、ほぼすべての世帯、事業所では都市部よりもより高速なインターネット通信網を利用することができます。
宇陀は元々、すごい地域だったのです。これからは新しい技術を積極的に取り入れて、田舎を田舎のままで進化させる古くて新しい自由闊達、恩送りのまち宇陀を創造していきましょう。

「なくなっていい集落なんてひとつもない」
その想いからチーム３万人構想は生まれました。



2040 年には人口 2 万人を割る宇陀市の現実

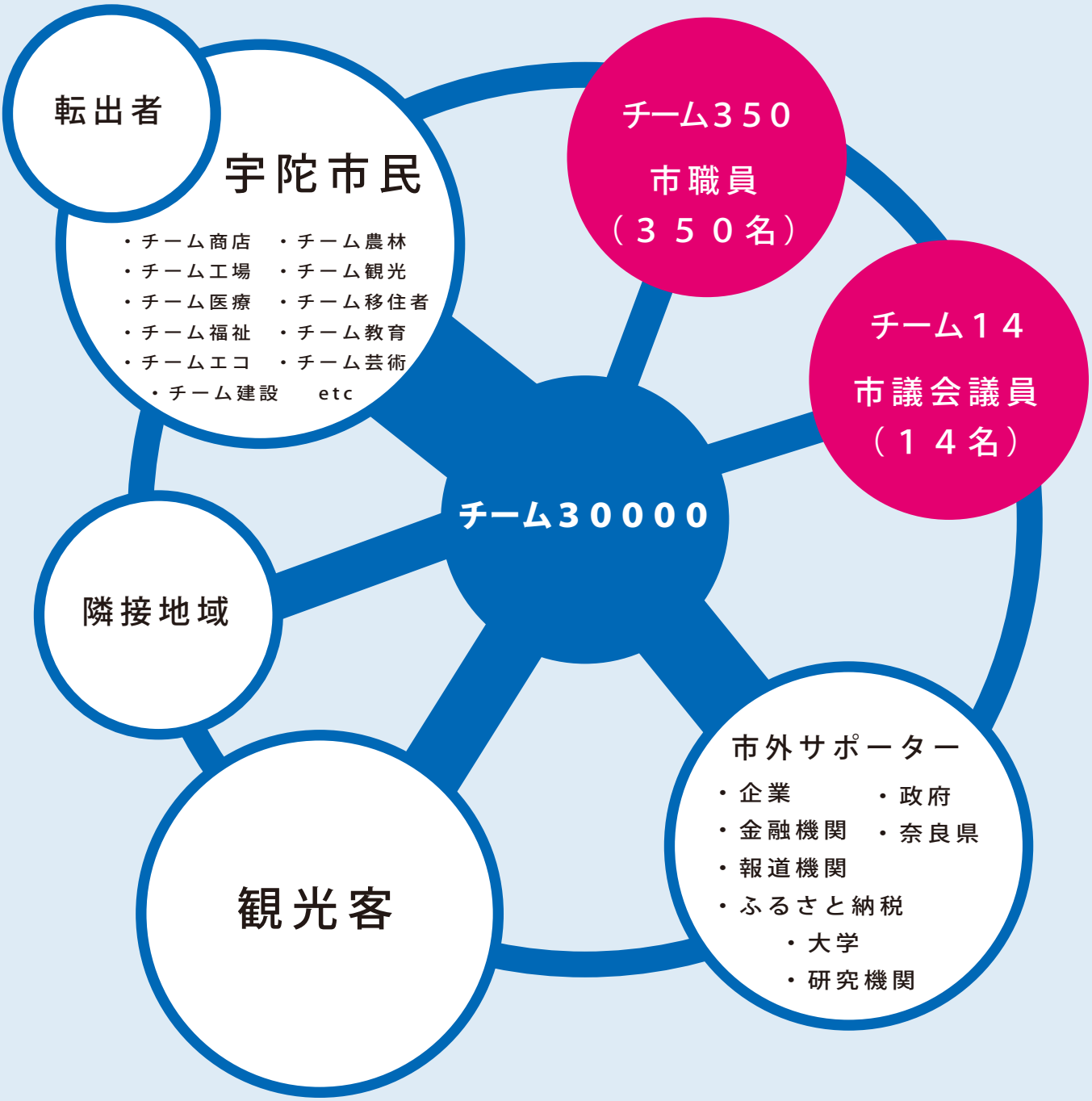
合併時に 3 万 7 千人いた宇陀市の人口も今から 22 年後の 2040 年には約半分の１万９千人に減少すると想定されています。
これから先、何もしなくても維持し続けられる集落や団地はないのかもしれません。集落から出ていく人もおられるかもしれません。けれど、自分の故郷を今でも思っている人はたくさんおられます。
集落を守るために現場で頑張っている方々、集落を思いながら市外や団地にいる方々どちらも大切な存在なのです。そして、新しく田舎にやってきたいと思っている方々。宇陀を訪ねることを楽しみにしている方々。過疎地域のために力を貸したいと思っている方々。それぞれのいる場所は違えども宇陀に思いのある方々を緩やかな連帯で繋いで、３万人のまち宇陀を守り、もり立てていくことができれば、宇陀はこれからも持続発展していけるのではないかと考え、チーム３万人構想は誕生しました。

勝井太郎が提案する新しいビジョン

信じよう、宇陀の力。

チーム３万人構想

・昔の日本人が行っていた恩送りの社会の現代版
・顔の見える 30,000 人がお互いを信頼してゆるやかに連携する社会
・単純な人口増を目指すのではなくつながりを放射状に広げる



入札制度の抜本的見直しから
チーム３５０(市役所)を立て直します。

今、市役所の信頼が揺らいでいます。
市役所には志高い職員が数多くいます。しかし、市役所にはお上意識がはびこり住民を下から支える役割を忘れてしまっているのではないでしょうか。チーム３万人の宇陀づくりは、本当に困った時に市役所がしっかりと支えてくれるという安心感が土台となります。

そんな中で市は、法令違反の疑いのある入札を長年続けてきました。
違法入札によって参加できるはずの企業が結果的に排除され、市民感覚では理解しがたい高額の工事契約が結ばれ続けていたのです。市が自らルールを破り、そのことを指摘されても開き直るようでは、誰が市役所を信頼して一緒に宇陀を創っていこうと思うでしょうか。

私、勝井太郎は、まず市民の信頼を裏切ってしまった市役所の入札事務を速やかに改善させ公平で公正な市役所を取り戻します。

チーム３５０（市役所）の皆さんへ

チーム３万人の宇陀づくりを進めていく上で欠くことが出来ない大切な存在がチーム 350 の市役所の皆さんです。
８年間、間近で行政運営を見てきて、行政施策に「無理、無駄、思いつき、思い込み」がかなりあるのではないかと感じています。入札の問題は、「周りの市がやっているのだから大丈夫だろう。」と思い込んでしまったから起きたのです。
施策の中には、市長、議員、地域の方々などから聞いた生の声を元に作られるものも数多くあります。もちろん、現場にしかない気づきや情報は大切なのですが、人からもたらされる情報には思い込みがあることも少なくありません。
社会的にそれが正しいのかどうか、確認していきましょう。現場で得た情報や意見は大切にしながらも、自分なりに証拠、裏付けを得ることを意識して下さい。
皆さんは乗客３万人の宇陀市丸の船員です。それぞれの持場を一生懸命に守りながら市民のために尽くしてくれていることは十分に理解し、敬意を払うべきであると考えています。
今後は乗客の声を聞きながら、それは社会にとって役に立つものなのか、財源的な裏付けはあるのか、確認し、考えながら提案するようにして下さい。共に宇陀のために尽くしていきましょう。
まちづくりに経営的な視点を持ち込み、地域と寄り添い、地域の力を引き出す新しい市役所を作っていきましょう。

チーム１４（市議会）の皆さんへ

市議会は様々な背景を持った方々が市民の代表として集まる場です。それぞれの見地から意見を出していくことも大切な役割です。地域の声をきちんと政策的な根拠のあるものに仕上げて、市と良い意味での緊張関係を保ちながら、市民のための施策を作っていくべきではないでしょうか。
今後は２５６１億円と試算されている道路や水道など公共インフラと市役所、学校、公民館、公営住宅などの公共施設を財政フレームを入れながら維持、補修、再編を進めていかなければなりません。予算議決権限を持つ市議会は、市民の暮らしを守る最終的な責任を持っています。市民の民意が反映される議事機関として、これからも、皆さんと共に歩んで行けると信じています。

チーム３万人（宇陀市民）の皆さんへ

チーム３万人構想は一つの集落も消滅させないという想いから作り上げたものです。
今まで市が行ってきた施策はどちらかと言うと目の前の課題をなんとかしようという対処療法が中心になっていたのではないかと思います。国から地方分権・地方創生の時代だからどんどん自治体間競争をして行けと言われてきました。人口減少社会で終わりのない自治体間競争を繰り広げることは大きな自治体が弱小自治体を飲み込み続ける私達にとって必ずしも好ましくない結果をもたらしかねません。

この不毛な競争からいち早く抜け出すためにチーム３万人の宇陀構想を具現化させていきます。まずは市役所をえこひいきのない、根拠を持った皆さんに説明できる地域に光をあてる行政運営を行う組織に一緒に変えていきましょう。

生まれ変わる新しい市役所は新技術を積極的に取り入れ、日本一市外の企業や研究機関、金融機関と組みやすい柔軟な役所に変わっていきます。チーム３万人の宇陀は、市内の方々と市外の応援団、ファンクラブがアメーバのように形を変えながら繋がっていきます。
耕作放棄されていた田畑は新しい技術によって超高付加価値の自然栽培野菜が作られて、都市へと出荷されていく。森林は整備され、今まで市外から調達するしかなかったエネルギーが自分たちでまかなえている。そんな日本中がうらやむような田舎町、宇陀を作り上げましょう。

私は宇陀の歴史に敬意を持つ政治をやっていきたいと考えています。100年たってもこの地域には人々の暮らしが息づいていなければなりません。

税金は等しくすべての市民が負担をしています。子供だって消費税は払っているはずです。本来政治家はすべての年代にとって、すべての地域の方々にとって公平な税の使い道を示すことが求められます。

政治家は市民の代表だとよく言いますが、実際は投票に行く人の代表です。政治家はどうしても自分のことを応援してくれる人のほうを向きがちです。だから政治と市民の感覚はずれていくのです。

投票に行きましょう。あなたとあなたの大切な人とあなたのお子さんやお孫さんのために。

信じよう、宇陀の力。

取り戻そう、宇陀の誇り。

勝井太郎プロフィール

1978 年 7 月 23 日生まれ　宇陀市室生大野出身 39 歳
室生村立大野小、室生村立室生中を卒業。近畿大学附属高校を経て、近畿大学商経学部を卒業。
大学在学中でありながら公的機関で起業家育成事業を担当する。卒業後はレストランチェーン運営会社に就職し店舗のマネジメントを行う。24 歳の時に政治を志し都議秘書を経て、2010 年 3 月執行の市議会議員選挙にて最年少 31 歳、最高得票で当選。1 期目は公共施設長寿命化計画、財源の裏付けのある公共施設管理など行財政改革に力を入れる。2 期目は副議長、議会運営委員会委員長、議会改革特別委員会委員長を歴任し、議会改革では中心的な役割を果たす。現在、大阪市立大学大学院創造都市研究科で地方自治、地域活性化について研究中。共著に『議会事務局はここまでできる！』(学陽書房)

Action for UDA
信じよう、宇陀の力。

〒633-0315　宇陀市室生大野2245-2
FAX 050-3488-1047
Mail taro@katsui.net
www.katsui.net